

若者へのメッセージ 12

第三回 何回でもやり直せばいい

刀エ 宮入小左衛門行平

日本刀製作の仕事は失敗の連続です。失敗作に心身ともに落ち込み、立ち上げられない時もあります。それでも私は仕事場に入り、またやり直す。

本当にこの仕事が好きだと言えるようになったのはここ数年のことです。若者が心から好きだと言える仕事に出会えることを、これからも応援していきたいと思います。

■刀づくりは失敗の連続

日本刀の完成までには幾重もの工程と長い時間が必要です。玉鋼たまはがねと呼ばれる独特の鋼を練る「鍛練」、鍛練した鉄を成形して刀の姿に作り上げる「火造り」、そして鉄をより硬く強くする「焼き入れ」、最後に荒砥あらとなどの仕上げを経て研師とぎし、鞘師さやしなどの専門の職方しよくかたに渡します。

日本刀を作る仕事は、温度や時間などを

データに数値化して管理する工業製品の製造とは違います。鉄や炎の色、鉄を叩いたときの手に伝わる感触や音など、言わば人の感覚や印象、記憶、経験という極めて曖昧なものを土台に製造しています。しかし、その極めて曖昧なものによって何年も、何十年も刀づくりを繰り返してきた経験が技術的な完成度を高めて来たのだと思います。

とはいえ、人の感覚や印象というものは

長く続けている間に少しずつズレるものでもあります。たとえば炎の色を、オレンジ色からもう少し黄色味がかったほうがいいと思って吹子ふいごで空気を送るとどんどん黄色くなっていき、気がついたときには白味を帯びた黄色になってしまった、これではいけないと今度はオレンジ色に戻そうと、すればするほどズレていく。目指す一番良い炎の色を中心に行ったり来たりです。最終的に作品となったときに、それが理想通りとならないのは、各工程ごとの僅かな感覚的なズレが重なって自分が意図したものは別のものになってしまいうからです。つまり失敗作ということになります。

私が目指す刀づくりは、鎌倉期、南北朝期に作られた名作と言われる刀剣の一番美しい部分を読み取り、作品の中に写し込むことを理想としております。その理想の高さが失敗作を多くしてきたものと思います。「刀づくりに失敗はつきもの」と充分にわかってやってきたつもりです。それは、名工と謳われた父でさえ、失敗の連続に心身のバランスを崩したことがあったからです。

■それでもとにかく仕事場へ

刀鍛冶かたなかしになったばかりの頃からしばらくは、そのような失敗のあと、次の製作に

自分をどう仕向けていくかにとっても苦慮しました。

それまで費やしてきた時間や素材、炭などの損失、また時には研とぎ上がったものがどうにも作品とにならないこともありました。経済的な損失もありますが、それ以上に精神的に萎えて仕事場に入ることすら苦痛に思えたものです。

そんな時、何が何でも、とにかく仕事場に入ることにしました。ぼんやりしていたり、掃除をしたり、道具を片づけたりしているうちに、少しずつ製作への意欲が湧いてきたものです。冷静になって、改めて失敗の原因を検証できたのもそんなぼんやりとした時間を過ごしたからかもしれません。それに、いろいろな制約があるにしても、私が失敗したことで誰も困らない。何回失敗しても、また何回でもやり直しが出来るのがこの仕事です。私自身があきらめない

限り何回でも仕事を繰り返し、その中から意に添ったものだけを作品として世に送り出せばいい。たとえば何回となく答案用紙を書き直して、限りなく満点に近くして提出するようなものと思っていただければ分かります。

■何回でもやり直せばいい

私もいつの間にか子供や弟子を育てるようになりました。また、小・中学生、高校生や信州大学の留学生たちなど、地域の様々な講座・講演の機会を与えられ、講師を務めることがあります。若い皆さんと接する機会も多くあります。そこでは日本刀を中心にした文化、技術の伝承など、刀づくりを通じて

思ったことをお話しさせていただくのですが、私が若い方々を見ていて特に強く感じることがあります。それは学業や進学、スポーツのほか、音楽のような習い事などでも、早い時期から何か一つの方向

を決めさせられているように見受けられることです。それも、一発勝負を強いられるという印象を受けます。そこからそれたり、つまずいたりすると、「おちこぼれ感」を持ってしまっているようです。

何かに打ち込むことはとても大切なことです。けれども私は、人生は一発勝負などではなく何回でもやり直しが出来るもの、どこからでも、横から入り直せるものであると思っています。時には挫折感に打ちひしがれる、虚脱感に立ち上がれないこともあるでしょう。そんな時は休みたいだけ休めばいい。いつかきっと書き直した最高の





炎の
祈る

宮入小左衛門行平



色紙プレゼントのお知らせ 宮入小左衛門行平先生ご揮毫の色紙を1名様にプレゼントいたします。官製はがきに、「宮入小左衛門行平先生の色紙希望」と「若者へのメッセージ」に対するご意見・ご感想を明記のうえ、編集部宛にお申込みください。締め切りは3月31日(火)必着です。ふるって応募ください。なお、色紙の発送をもって発表にかえさせていただきます。

答案用紙を提出する時が来ると思います。

振り返れば、失敗を繰り返した刀づくり、また、寄り道ばかりでなかなか生きる方向が定まらなかった私の経験から、そんな風に伝えることにしています。

「あなたのようにはいかないのでは」との質問を受けることがあります。けれども私がこれまで育てた4人の弟子は、かつて企業に勤めたり、海外を放浪したりと様々な経験を積んだ後で私のところに入門し、刀鍛冶となり独り立ちしました。「もう後がない」という背水の陣にも似た思いと程よく身に付けた社会性があいまって、夢を成就させたのだと思います。

私自身、本当にこの仕事が「好きだ」と言えるようになったのはここ数年のことなのです。

やり直してもいい、あきらめないで一生懸命何かに取り組んでさえいれば、きっと皆さんも、心から好きと言えるものに出会えるときが来る。

そんな気持ちで応援しています。